

琉球国発給文書と竹紙

富 田 正 弘

はじめに

16世紀から19世紀にわたって、琉球国王が国内の官職・役職の補任や所領の安堵に用いた文書に、いわゆる「辞令書」(注1)という文書があり、現在200通ほどの伝存が認められている。(注2) これら辞令書の古文書学的考察については、上江洲敏夫氏その他の詳細な論考があり(注3)、今更新たな論点を加えることは当面見当たらない。辞令書の料紙についても、「唐紙」や「竹紙」が用いられ、あるいは楮紙の使用も認められることは、すでに指摘されている。

しかしそれでは、どの辞令書が竹紙であり、どれが楮紙であり、その根拠は何かと言うことを論じた論考は、いまだ行われていないように思う。このたび、科学研究費を得て、東アジアの古文書料紙研究を進めるなかで、辞令書料紙の光学的計量的検討を行った(注4)結果、まだ全ての辞令書を調査したわけではないが、大方の個別辞令書毎の紙質が確定でき、ある程度の時代的傾向がはっきりしてきた。

結論から言えば、辞令書の料紙の大半は、中国から輸入された竹紙であって、雲母等で文様を摺りだした唐紙いわゆる「からかみ」ではない。竹紙は、表具される書跡や絵画、袋綴じの冊子本には多く使用され、あるいは簡便な私信にも使われると思うが、裂けやすいために卷子本とか公的あるいは公驗的な文書には、ほとんど用いられないものである。それだけに、琉球国王が敢えてこのような紙を公驗ともいふべき補任状に用いたことには、かなりの政治的意図が込められていることに相違ないと考えられる。

筆者は、先年東京大学史料編纂所で非常勤講師を務める機会を与えられたが、その期間に編纂所が所蔵する島津家文書のうち琉球国発給文書の料紙を調査させていただいた。島津家文書には、琉球国王・王子・三司官から薩摩藩主や家老中に充てた起請文や書状が200余通伝存する(注5)が、この中にも数点

の竹紙を料紙とする文書が見られた。また、東京国立博物館が所蔵する「徳川幕府琉球王府往復書翰」には、琉球国王から幕府老中に当てた書状があり（注6）、このうちにも竹紙が含まれている。したがって、琉球国王は、辞令書以外の文書にも竹紙を用いていることが知られるが、その使われ方を辞令書のそれと比較することは、無駄ではないように思える。

ここでは、さらに島津家文書の琉球国発給文書の料紙を検討することによって、辞令書に竹紙を用いている意味を考える上での手がかりを探ってみたい。

1 琉球国辞令書の料紙

表1の琉球国辞令書一覧は、現在われわれが承知している辞令書の全てを編年順に並べたものである。このうち、紙質の欄に紙質名称が記入されているものが調査済みのものであり、「―」と表記としてあるものが、いまは現存を確認できないとされているものあり、何も記載のないものが未調査のものである。先述のように、竹紙は裂けやすいので、おそらく受領するとすぐに裏打ちとか表具されたと思われる。実際、現存の辞令書のほとんどは、軸装が施されており、そのため紙質の光学的調査には限界があり、その判定が難しいものも少なくなかった。おそらく、いくつかは間違いが出る可能性もあると思うが、判断の方法は次のようにした。

辞令書の料紙は、竹紙と楮紙との2種類の紙しかないようなので、これらを区別するということで満足することにした。まず、100倍の倍率で観察できる顕微鏡で繊維の太さを観察する。太いのが楮紙で、三桎紙よりやや細かい目のもの（一部に幅広の繊維も含む）が竹紙である。しかし、上から光を当てる反射光による観察では、繊維や添加物の状態はよく看取できない。透過光による観察ならよく見えるはずであるが、裏打ちや軸装されていると、透過光による観察が困難なものも出てくる。つぎに、表面の簀目が観察可能の時は、1寸あたりの簀目の本数を数える。それが30本程度以内であるなら楮紙であり、40本以上に細かいものなら竹紙であろうと推定できる。その他、繊維束の細かく短いものや料紙に割れが生じてものは竹紙である可能性が高い。その反対に破れた部分などの繊維の毛足の長いものは、楮紙の可能性が高いということになる。（注7）

右のような方法で判定した結果は、表1の紙質欄のとおりである。まず、大きな傾向からいえば、1609（慶長14）年に薩摩から侵攻を受けた時の尚寧王までは、辞令書はその料紙に楮紙を使用しており、次の代の尚豊王からはこれに竹紙を使用し始める、というふうに結論づけることができる。尚寧王以

前の時期が楮であり、尚豊王以後の時期が竹であるという、意外な結果となった。

次に、全部調査しないと正確にはわからないことであるが、おのおのの王代のうちでは、料紙の使い方が一定していると言いうる。すなわち、ある王は竹だけ、ある王は楮だけとなっている。具体的に指摘すると、尚寧王以前の王代に限って見ると、尚真・尚清・尚永・尚寧の代では押し並べて楮だけを使用しており、16世紀半ば以降に在位した尚元王の代だけは、今のところ竹を使っているという結果が出ている。また、尚豊王以降の王代について見ると、尚豊・尚賢・尚貞・尚益・尚敬・尚穆・尚顥・尚育・尚泰の歴代は、辞令書の料紙として竹紙だけを使っているのであるが、17世紀半ばに即位した尚質王の代だけには、今の分かっているところでは楮紙のみを使用しているのである。総じて、各王の在位中で竹と楮の両方を使用したという王はいないのである。

しかし前段のことは、前々段において辞令書の紙は尚寧以前が楮で尚豊以後が竹であると指摘したと矛盾することになる。したがって、前々段のことをもう少し正確に言うと、尚寧王までの歴代の王は、辞令書の料紙に楮紙を使用しているが、尚元王ばかりは今調査できている限りでは竹紙だけを使っている。また、尚豊王以降の歴代の王はこれに竹紙を使用し出すが、尚質王だけは今の分かっているところでは楮紙だけを使用している。しかし、大方の流れとして、尚寧と尚豊の間で楮紙から竹紙へと大きく変わったといえるであろう。そうであるならば、ここで、この時期にどうして王府の公文書である辞令書の料紙が楮紙から竹紙へと変化したのか、その意味は何かという疑問が出てこよう。これについては琉球史に疎い筆者の能力を超える問題であるが、ただ料紙が文書の形態の一構成要素だとするならば、使用する料紙の変更とそのほかの様式の変化との関連をいくつか指摘することも可能であろう。

すでに指摘されていることであるが、辞令書の様式は、尚寧王までは仮名書きの文体で「しよりの御み事」ではじまる形（表1の1～57の辞令書）であり、17世紀後半の尚貞王以降は漢文体の「首里之御詔」ではじまる形（表1の72以降の辞令書）に変化し、王朝末期に到る。この中間の尚豊・尚賢・尚質時代は、その過渡期の辞令書といわれ、前期の辞令書（「古琉球辞令書」と呼ばれている）で「しより」と仮名で書き出される部分が、「首里」というふうに漢字の表現となる（表1の58～71の辞令書）。まず、これらの辞令書の様式変化との関連でからいえば、辞令書料紙が竹紙に変更された時期は、「首里の御み事」と書出が変わった時、過渡期の辞令書が出現した時からと言ってよいであろう。とするならば、辞令書への竹紙の使用は過渡期の辞令書への様式変化の意味と関連して考えていかなければなるまい（注8）。

過渡期の辞令書においては、基本的には仮名文体であるが、単語の漢字表記が

以前より多くなっていることが重要である。前期の仮名書きの辞令書様式にみられた「しよりより〇〇〇にたまわる」という差出書と充名とは、後期の漢文体の辞令書様式（「近世辞令書」と呼ばれている）にはみられなくなるが、この形は、過渡期辞令書の出現の一つ前、尚寧末期の仮名書き辞令書において、すでに消滅していることも注目しておく必要がある。また、後期辞令書のひとつの特徴である年号に干支を付す表記法についても、過渡期辞令書の最後の例においてすでに出現していることも考慮する必要があるだろう。当然ながら、受給者の名称（充名）の表現が完全な漢字表記になるのは、後期の漢文体辞令書の成立と連動しているが、さらにそれが琉球風名称から中国風氏姓に変化するようになるのは、漢文体辞令書が成立して、半世紀を過ぎてからであった。このような一連の変化も合わせて考えておかなければならないだろう。

つまり、過渡期辞令書という時期区分もたしかに重要なことではあるが、他方でその前後の時期を含めた細かな緩やかな長期的な変化にも注目する必要があるということである。こうした前期辞令書から後期辞令書への長期的な変化過程を考慮すると、辞令書に竹紙を使用するようになるのも、その緩やかな変化の一環であると考えられてくるのである。これらの変化の行く先は漢文体の辞令書であり、そして漢文体の辞令書は中華文明を体現するものであり、竹紙も中国南方に産する紙であるから、そのような性質を備えているといえるであろう。つまり、辞令書に竹紙を使用するようになるということは、琉球政体の中華文明化という視点から考えることも可能なのである（注9）。前期の仮名書き辞令書の様式は、日本の文字と同じ草書体の平仮名書を用いてはいるものの、他方で明清の年号を使用しながらも、琉球的言語表現を駆使するという、まさに琉球独特の形態であったが、尚寧・尚豊期からの辞令書の様式変化は、このような琉球独特な形態から東アジア世界普遍の中華的形態への深化、改革だったのではあるまいか。

読んですぐ廃棄してしまうような書状にはともかくも、保存されるべき公文書に竹紙を用いるということが東アジア通用であるとは、今のところ考えられないが、家譜に竹紙を用いることは袋綴じの典籍に竹紙を使用するという中国の風に合致しており、家譜と密接な関係にある辞令書に竹紙が用いることが中華風と考えられたのかもしれない。

2 琉球国王・摂政・三司官起請文の料紙

前節では、琉球国内統治の最高文書の1つであり、国王の詔である辞令書が、17世紀20年代からその料紙に竹紙を用いるようになることを確認し

た。この節では、それならば琉球国は対外的な文書にどのような料紙を用い、その中で竹紙はどのように使用されているか考えてみたい。

はじめにで述べたように、島津家文書には、琉球国王・王子・三司官から薩摩藩主や家老中に充てた起請文や書状が200余通伝存するが、これらは17世紀前期から琉球国が従属せざるを得なかった宗主国に対する一種の対外文書といえることができる。文書様式から大きく分類すると、琉球国王・摂政・三司官が薩摩藩主あるいは藩庁に提出した起請文と、国王・王子・三司官らが藩主や家老中に充てた書状類とに分けることができる。前者は、それぞれの位職に就くことを薩摩藩から許可されたときに、薩摩藩に対する忠誠を誓わせる意味で提出させられたものであり、公文書の上申文書にあたる。後者は、琉球国王やその重臣たちが宗主国の主君や重臣たちに送った儀礼的な挨拶や、公的な政務決済にいたるまでの中間的交渉手続きのために出されたものであり、私的あるいは内々の互通文書といえる。この節では、まず対薩摩従属の象徴ともいえる前者の起請文の料紙から検討してみよう。

これらの文書は、全部で94通確認できるが、これらを発給者の分類別に分けると、国王の起請文が15通、摂政のそれが17通、三司官のそれが62通である。これらをそれぞれ一覧表にしたものが、表2・表3・表4である。これらに共通した特徴は、宗主国に対する誓約書であるから、日付に日本の元号を使用していることであり、また島津氏から指定された霊社上巻起請文の形式をとることである（注10）。千々和到によれば、この形式の起請文は、豊臣秀吉の臨終に際し島津義久が徳川家康・前田利家宛てに出した形式の起請文であり、その後島津家中でも元禄以前まで家臣に提出させた形式のものであるという。「敬白霊社上巻起請文事」で本文を書き始め、神文部分は何枚もの牛王宝印を継ぎ合わせて長々とした神仏勧請の文言を並べるところに特徴があるという。したがって、これらの琉球国王らの起請文は島津氏の指定した日本的な様式の文書といえることができる。

また千々和が指摘するように、表2のはじめに見える尚寧王の起請文を除いた全ての起請文が花押の外に血判を添えている点は、琉球国の島津氏に対する従属性を窺えて余りあるものがある。国王の起請文は薩摩に屈した尚寧王に始まり、その後代々の国王が即位して後少し間をおいて島津氏に提出しており、即位まもなく薨去した尚成王を除く全ての王のものがいまに残されている。（注11）

摂政の起請文は、島津氏から尚寧王の牽制役として摂政に就けられた佐敷王子朝昌（後の尚豊王）の起請文を初見とするが、次の摂政起請文は一世紀後の豊見城王子朝匡のものであり、この間のものは見られない。しかし、豊見城王子以後は、表3の内容欄を追っていけば分かるように、「〇〇王子跡役」とい

う文言から、前任の摂政名と新たに就任した摂政の名前が継続して辿れることから見ても、代々の摂政の起請文がもれなく残されていることがわかる。豊見城王子の前の小禄王子以前のものは失われたという可能性もあるが、近世島津家文書の網羅的な伝存状況から推して、摂政起請文は18世紀に入って新たに行われるようになり、薩摩藩が解消される幕末にいたると考えるのが妥当であろう。

三司官の起請文は、表4のとおりであるが、元禄13年の池城親方安倚起請文を初見として、18世紀初頭から幕末にいたる多くものが残されている。これらも伝存状況から言って、悉皆伝存していると考えてよく、豊見城王子朝匡に始まる摂政起請文に先立って提出が求められるようになったものと考えられる。はじめ国王だけが提出を求められ、1世紀近く後、三司官、まもなく摂政にまで起請文の提出が求められていくことは、やはり島津氏の琉球統制の強化といわざるを得ないであろう。

さて、いまここでその料紙を考察しようとしている起請文は、尚寧王と佐敷王子のそれを除けば、1節で考察した辞令書の時期から言えば、全て過渡期の辞令書出現以後すなわち料紙に竹紙を用いるように変更された以後のものである。国内の公文書である辞令書とどのように異なっているか、あるいは同じであるか考えてみよう。まず、起請文のうち神文部分については、ほとんどが那智滝牛王宝印の紙に書かれている。これは何らかの形で熊野から入手するものであろうから、今回は考察の対象から除外しておいたほうがよいであろう。(注12) したがって、ここでは、起請文の書き手が用意すると思われる、本文部分である第1紙目の紙(以下、本紙という)についてのみ、考察してみることとする。

表2の国王起請文の本紙料紙欄を見ていただきたい。まず、尚寧王は良質の楮紙である引合を使用しているが、引合は原材料が楮という点ではたしかに辞令書の楮紙と類似のものであるが、しかし、引合は楮紙のうちでは最高級の紙であり、辞令書に使用される楮紙と比較して格段に上質のものなのである。しかし、尚豊王以降の起請文本文の料紙をみると、斐紙間似合・楮紙奉書紙・斐紙鳥子等が用いられ、尚質王のもの除けば、どの王の起請文料紙もその王が辞令書に用いた紙(竹紙)とは異なる紙を使っているわけである。尚質にしても、辞令書では楮紙を用いているが、それもそれほど品質がよい楮紙とは考えられず、起請文に用いている奉書紙の方が遥かに上質である。引合・間似合・奉書紙・鳥子の紙質を品質の格差から比較すれば、引合・鳥子・間似合・奉書紙の順となるが、過渡期辞令書の時期である尚賢・尚質の代や、漢文辞令書の初めのころに当たる尚貞等の代において使用する起請文料紙が、ほか時期の王代に用いる起請文料紙より少しランクの落ちる奉書紙を用いていることが気になる

ところである。文書料紙の品質の良し悪しは、原則的には発給者の政治的社会的立場の位置づけを表現するからである。

これら料紙の品質と関連ありそうなことは、起請文に署名する国王の称号であろう。表2差出欄からわかるように、尚豊起請文では「中山王」と称号を書いているが、その後の尚賢・尚質・尚貞・尚益は「琉球国司」と称号しているのである。そして、尚敬以後に再び「中山王」称号が復活するのである。後にみる国王書状における差出書の称号と比較すると、「琉球国司」と称号し始めるのは尚豊からであり、尚賢・尚質・尚貞・尚益は書状においても「琉球国司」を称している。尚敬以後に再び「中山王」称号が復活するのは、起請文の署名と同じである。このような国王の称号と起請文の紙質の関連、その変化を整理すると、まず尚豊においては、起請文では「中山王」称号しているが、その料紙には斐紙間似合という尚寧の楮紙引合より1ランク下のものを用い、さらにその後の発給と見られる書状の差出書では「琉球国司」の称号を始めるのである。これを継承するようにその後の尚賢・尚質・尚貞・尚益は起請文・書状ともにその署名に「琉球国司」と称号し、さらに1ランク下の奉書紙を用いることになる。尚益では起請文・書状ともにその署名に「琉球国司」と称号しているものの、起請文の料紙では斐紙鳥子という良質の紙をもっているのである。「中山王」称号が復活する尚敬以後の起請文料紙も斐紙鳥子ないし斐紙間似合に上質化が見られるのである。

次に、表3の摂政の起請文を見ると、豊見城王子以下は全て楮紙奉書紙を用いており、明らかに国王の起請文料紙よりもランクの低い紙を使用していることがわかる。これは、おそらく、国王が基本的に引合・鳥子・間似合を使用していることを配慮して、それより下の奉書紙を使用したと考えてよいであろう。ところで、摂政起請文の最初の例である佐敷王子のそれが竹紙を用いていることは、注目してよいであろう。これは対外的な文書ではあるが、重要なことは公文書に竹紙を用いていることであり、この佐敷王子は、後に即位して尚豊王となった時、公文書である辞令書に竹紙を用いる先鞭を付けることになったのである。

表4は三司官の起請文であるが、おなじくその本文料紙欄をみると、その紙質も大半は奉書紙であることがわかる。中には、楮紙引合のものが3通ほど見えるが、これらの紙質はどうか引合の範囲とすることができるが、奉書紙にかなり近い低い品質のものである（注13）。したがって、三司官の起請文の料紙は、ほぼ摂政と同等の品質の紙であり、国王のそれよりも一段下のものということができる。

以上、琉球国から薩摩藩に提出された起請文の紙について全体的に眺めてみると、薩摩から強制された文書だけに様式も日本的なものであり、料紙も日本

の慣習に倣ったものとなっている。唯一の例外は、佐敷王子すなわち後の尚豊王の起請文料紙であり、そこで用いた竹紙は、王子が後に王位についてから、辞令書でも竹紙を使用することになることは注目に値するであろう。

3 琉球国王書状の料紙

前節では、対外的な公文書である国王・摂政・三司官らの起請文は、島津氏から強制されたこともあって、日本製の料紙を用い、ほとんど竹紙を使わなかったこと、また、唯一例外として竹紙を用いた佐敷王子朝昌は、即位して尚豊王となつてから、辞令書という公文書に竹紙を使用する先鞭をつけることなどを明らかにした。したがって、1・2節では、竹紙の公文書における使用のされ方を検討したことになるが、最後に私的あるいは内々の文書である書状における竹紙の使われ方をみていきたいと思う。

琉球国王は、17世紀初頭に島津に屈服する以前から、日本と琉球の外交・交流の窓口であった島津家の当主と儀礼的な付き合いがあり、また屈服した後も島津家に慶弔のことがあるたびに使者を派遣し、祝儀や礼を交換していた。このような慶弔の挨拶の交換や政治的な内々の折衝には、本来は私的であるべき書状が使用される。島津家文書の内にはこのような琉球国王の書状が、97通残されている。日本の書状形式の文書は、本来は日付が月日のみで年紀を欠くものが多いが、その故に書いてある内容が意味不明のものが少なくない。そのため、この国王書状については未だ十分内容を解明していないものも少なくないので、ある程度内容のわかるものについてのみ、選択的に一覧表にしたのが、表5である。

書状は原則的に互通文書であるから、前節で考察した起請文とは異なり、琉球国王が、中国風で発給しようとするまいが、また日本の様式をとろうとするまいが、薩摩から強制されるものではなく、自由に選択できたはずである。実際、万暦8年12月22日中山王尚永書状は、基本形は候文体で書かれた日本式書札であるものの、日付に年号を加えた上に「首里之印」の朱印を押した堅いもので、しかも明の年号であり、月名が「臘月」と異名で書き、日付も「廿有一」とする、半ば中国風のものであった。この書状の料紙は、経年変化で色がより濃くなったものではないかと思われるが、もとはもう少し薄い黄色な竹紙であったと考えられる。このように、薩摩に侵攻を受ける以前の国王書状の形式は、基本は日本の書状であったが、唐風の趣を漂わせたものであった。竹紙はその唐風の演出の一要素であったと言ってもよいであろう。

表5を見ると、上のような書状様式は、元和7年と推定される「季夏十七日」

付の中山王尚豊書状に至るまで、尚清・尚永・尚寧と1世紀ほど続けられたようである。しかし、尚寧王の時には、「首里之印」朱印の代わりに花押を書き、中国年号を外すようになる。そして、この表に載せる尚寧書状8通のうち5通は竹紙であるが、ほかの3通の料紙が楮紙引合を用いていることも、注目してよいと思われる。このような変化は、尚寧王の薩摩連行と関係があるのかもしれないが、このような変更によって大きく唐風を後退させるものとなった。

尚豊の書状は、尚寧王書状の変化を継承した上、表5の12の正月3日付書状のようにさらに月名の異名も消え、料紙にも前述の1通を除いては竹紙を用いなくなる。このように、これ以降の琉球国王が薩摩藩対して出す書状の基本形は、尚寧・尚豊時代に定まったといえよう。国王書状のこの後の変化としては、差出書が尚豊の時の途中から「中山王」から「琉球国司」と変わり、(尚賢についてはわからないが)尚質・尚貞・尚益と引き継がれ、尚敬の時に再び「中山王」の称号が復活する。この差出書の変化の時期は、前節で述べたように国王起請文に見える差出(位署書)の変化の時期と一致しており、尚賢王もその例外ではないものと考えられる。「中山王」という表記が誇り高いものであるとすれば、「琉球国司」という表記がいかに屈辱的なものであったかは、のちにこのように中山王の称号表記が復活されたことによっても窺えるのである。

国王書状の料紙についていえば、尚豊は竹紙に代えて、斐紙鳥子を使用している。鳥子は日本では貴人の書札にも多く使用される良質の紙であるが、尚豊は料紙においても日本の風に合わせたといえるのである。しかし、考えてみると、尚豊は国内向けの公文書である辞令書においては、それまであまり使われていない竹紙をその料紙に使うよう先鞭を付けた国王であった。これとは逆に、対薩摩向けの書状においては、それまで使用されていた竹紙をやめ、日本の紙を使用し始めたのである。尚豊以後の国王書状においては、斐紙鳥子さらには斐紙間似合が主体であり、時には楮紙奉書紙が用いられるようになる。竹紙についても、全く使われなくなったのではなく、尚質王に至っては2通の使用例を見出すことができるが、使用例は少なくなるといえるであろう。

おわりに

以上、琉球国の国内公文書である辞令書、琉球国王・摂政・三司官から薩摩島津家に提出された起請文、国王が島津家に出した書状の様式と料紙について検討してみた。その結果、文書料紙としての竹紙は、まず島津家に出した国王書状に、中国風な要素の演出として使用されていたが、尚豊王のときに竹紙の

使用をやめ、これとは反対に、尚豊は国内向けの辞令書という公文書では、これを中国的風な形に仕上げるために竹紙を使用しはじめるのである。

- 注1 辞令書という名の由来については、不勉強でまだ知らないが、あまり適切な名称とは言い難い。やはり、琉球国王が直接に発給する文書であるから、それにふさわしい名称を付けるべきであろう。後期の辞令書は、「首里之御詔」で始まるのであるから、琉球国王詔でもいいのではあるまいか。しかし、ここでは、今までの通例に随って、「辞令書」で通しておく。
- 注2 昭和53年度に行われた沖縄県教育委員会が行った辞令書等調査によれば、沖縄県下（県外に移動しているものも含む）および鹿児島県奄美地方に現存しているものが84通、現存が確認できないがかつて伝存したことが知られるものが32通であるという（昭和53年度沖縄県文化財調査報告書第18集『辞令書等古文書調査報告書』）。その後、安良城盛昭氏が収集したものが沖縄県立博物館に所蔵されており、最近市場に出た喜界島の辞令書が九州国立博物館に入るなど、伝存が確認できるそれが増加しているようである。
- 注3 上江洲敏夫「辞令書の古文書学的考察」（注2報告書所載）
- 注4 平成15年度から平成19年度まで継続、基盤研究A『紙素材文化財の年代測定に関する基礎的研究』（代表 富田正弘）。顕微鏡による繊維・添加物の状態、打紙の有無、斜光線による紙表面（簀目・糸目・板目・刷毛目・紗目）の観察・計量、器機を用いた厚み・重量の計測などを総合して、紙質の判定を行っている。
- 注5 東京大学史料編纂所編『島津家文書目録』参照。
- 注6 『東京国立博物館図版目録』琉球資料編に写真が掲載されている。
- 注7 竹紙かどうかの確実な判定は、繊維を微量採取し、薬品と反応させたり、染色して顕微鏡で覗けば容易に判定できる。しかし、それは破壊調査であり、厳に慎むべきである。このような光学的調査でもかなりの確率で判定ができるようにしたい。しかし、その判定が難しく、判定することが、学術的に重要で、それによって多くの研究に資するものである場合は、しかるべき公の機関が、これを行うことも許されると考えられる。しかし、それは、公開で行うことが条件であろう。
- 注8 沖縄県立博物館に寄託されている田名家の辞令書は、1987年に企画展「田名家所蔵品展 ある首里士族の400年」に出品され、そのとき

刊行された図録に写真を掲載している。その写真で指摘するなら、第1号から12号までが前期の辞令書、13号から16号までが過渡期の辞令書、17号から32号までが後期の辞令書である。

注9 後期の漢文体辞令書が中華文明化の象徴だとすれば、前期の仮名書き辞令書はどう考えればよいであろうか。仮名は日本のそれと同じ字であることをもって日本的と考えるべきではあるまい。仮名で表現されているのは琉球の形なのだと理解すべきであろう。

注10 千々和到「霊社上巻起請文—秀吉晩年の諸大名起請文から琉球中山王起請文へ—」（『國學院大學日本文化研究所紀要』一第八十八輯一）。

注11 尚穆王・尚顯王・尚泰王は、島津家当主の交代に際し、再度提出しているという。（前注千々和到氏論文）

注12 しかし、牛王紙にも品質の差が窺われるようなので、どのような品質の牛王紙と入手しているか考えて見る必要もあるであろう。

注13 引合も奉書紙も楮の綺麗な繊維を選別して漉き上げるものであるが、その精選度合いは全く異なる。精選度の低い奉書はそれに米粉を加えて白く柔らかにするが、引合は良質の繊維だけで白い艶のある紙に仕上げるのである。調査現場において顕微鏡で除き、緒紙で米粉が見当たらない場合、比較的質がよいと、引合と判定する場合も出てくる。

表 1 (1) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	名称	琉球年号	和年号	西曆	形態	紙質	縦	横	紙数	印章
嘉靖 2年	8月26日	渡明船宝丸官舎職補任辞令書	尚貞47年	大永 3年	1523008026	卷子	楮紙	275	370	1	2
嘉靖 3年	4月20日	北庫理東風平大屋子もいへ知行安堵辞令書	尚貞48年	大永 4年	1524004020	—	—	—	—	—	—
嘉靖 8年	12月29日	笠利間切宇宿大屋子職補任辞令書 (写)	尚清 3年	享禄 2年	1529012029	—	—	—	—	—	—
嘉靖 13年	嘉靖 14年頃	瀬戸内東間切首里大屋子職補任辞令書	尚清 8年	天文 4年	1535099999	—	—	—	—	—	—
嘉靖 15年	5月13日	西原間切天久里主所安堵辞令書	尚清10年	天文 5年	1536005013	卷子	楮紙	305	409	1	2
嘉靖 16年	8月口日	渡明船世統富船頭職補任辞令書	尚清11年	天文 6年	1537008020	卷子	楮紙	258	377	1	2
嘉靖 20年	8月20日	渡南蜚船勢治荒富船頭職補任辞令書	尚清15年	天文10年	1541008099	卷子	楮紙	271	380	1	2
嘉靖 24年	11月 6日	真和志間切儀間金城里主所安堵辞令書	尚清19年	天文14年	1545011006	卷子	楮紙	280	365	1	2
嘉靖 27年	10月28日	瀬戸内西間切儀間切西大屋子職補任辞令書	尚清22年	天文17年	1548010028	原形	楮紙	302	365	1	2
嘉靖 30年	4月13日	真和志間切儀間切儀間切西大屋子職補任辞令書	尚清25年	天文20年	1551004013	卷子	楮紙	296	371	1	2
嘉靖 33年	8月29日	喜界志戸桶間切大城大屋子職補任辞令書	尚清28年	天文23年	1554008029	—	—	—	—	—	—
嘉靖 33年	12月27日	屋喜内間切名音掟職補任辞令書	尚清28年	天文23年	1554012027	裏打	楮紙	300	396	1	2
嘉靖 35年	8月11日	屋喜内間切名柄掟職補任辞令書	尚元元年	弘治 2年	1556008011	裏打	竹紙	277	404	1	2
嘉靖 39年	8月 8日	豊見城間切大嶺里主所安堵辞令書	尚元 5年	永禄 3年	1560008008	卷子	竹紙	275	404	1	2
嘉靖 41年	12月 5日	相応富引家来赤頭船頭職補任辞令書	尚元 7年	永禄 5年	1562012005	卷子	竹紙	262	438	1	2
嘉靖 42年	11月10日	勢治荒富引里主部家来赤頭船頭職補任辞令書	尚元 8年	永禄 6年	1563011010	卷子	竹紙	260	510	2	2
嘉靖 45年	10月 8日	君南風大阿母知行安堵辞令書	尚元11年	永禄 9年	1566010008	—	—	—	—	—	—
隆慶 2年	8月24日	笠利間切笠利首里大屋子職補任辞令書	尚元13年	永禄11年	1568008024	—	—	—	—	—	—
隆慶 2年	8月24日	瀬戸内東間切首里大屋子職補任辞令書	尚元13年	永禄11年	1568008024	—	—	—	—	—	—
隆慶 3年	正月 5日	鬼界東間切阿田のろ職補任辞令書	尚元14年	永禄12年	1569001005	—	—	—	—	—	—
隆慶 5年	6月11日	瀬戸内東間切阿木名目差職補任辞令書	尚元16年	元龜 2年	1571006011	裏打	楮紙	288	391	1	2
隆慶 6年	正月18日	屋喜内間切先原目差職補任辞令書	尚元17年	元龜 3年	1572001018	裏打	竹紙	276	392	1	2
隆慶 6年	正月18日	屋喜内間切屋喜内大屋子職補任辞令書	尚元17年	元龜 3年	1572001018	—	—	—	—	—	—
萬曆 2年	5月28日	瀬戸内西間切須古茂ねたち知行安堵辞令書 (前欠)	尚永 2年	天正 2年	1574005028	原形	楮紙	275	250	1	2
萬曆 2年	5月28日	瀬戸内西間切須古茂ねたち知行安堵辞令書 (写)	尚永 2年	天正 2年	1574005028	原形	楮紙	264	760	2	3
萬曆 2年	5月28日	瀬戸内西間切古志さかい知行安堵辞令書	尚永 2年	天正 2年	1574005028	—	—	—	—	—	—
萬曆 2年	5月28日	瀬戸内西間切須古茂たる知行安堵辞令書	尚永 2年	天正 2年	1574005028	原形	楮紙	263	760	2	3
萬曆 5年	9月 6日	北谷間切北谷掟知行安堵辞令書	尚永 5年	天正 5年	1577009006	—	—	—	—	—	—
萬曆 7年	5月 5日	屋喜内間切部連大屋子職補任辞令書 (写)	尚永 7年	天正 7年	1579005005	—	—	—	—	—	—
萬曆 7年	10月 1日	名瀬間切首里大屋子職補任辞令書	尚永 7年	天正 7年	1579010001	—	—	—	—	—	—
萬曆 10年	8月 2日	那覇大阿母職補任辞令書	尚永10年	天正10年	1582008002	—	—	—	—	—	—
萬曆 10年	8月 2日	真和志間切内ま内地知行安堵辞令書	尚永10年	天正10年	1582008002	—	—	—	—	—	—
萬曆 11年	正月27日	屋喜内間切名柄のろ職補任辞令書	尚永11年	天正11年	1583001027	—	—	—	—	—	—
萬曆 12年	5月12日	金武間切恩納のろ職補任辞令書	尚永12年	天正12年	1584005012	—	—	—	—	—	—

表 1 (1) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	名称	琉球年号	和年号	西曆	形態	紙質	縦	横	紙数	印章
萬曆14年	5月9日	今帰仁間切浦崎日差知行安堵辞令書	尚永14年	天正14年	1586005009	—	—	—	—	—	—
萬曆15年	2月12日	国頭間切安田里主所安堵辞令書	尚永15年	天正15年	1587002012	—	—	—	—	—	—
萬曆15年	2月12日	国頭間切安田よんたもさ掟知行安堵辞令書	尚永15年	天正15年	1587002012	—	—	—	—	—	—
萬曆15年	7月8日	伊平屋仲田里主所安堵辞令書	尚永15年	天正15年	1587007008	軸装	楮紙	278	757	3	3
萬曆15年	10月4日	名瀬間切大熊のろ職補任辞令書	尚永15年	天正15年	1587010004	裏打	楮紙	272	442	1	2
萬曆16年	5月27日	瀬戸内東間切首里大屋主所安堵辞令書	尚永16年	天正16年	1588005027	—	—	—	—	—	—
萬曆20年	10月3日	今帰仁間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧4年	天正20年	1592010003	—	—	—	—	—	—
萬曆21年	5月16日	真和志間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧5年	文禄2年	1593005016	卷子	楮紙	281	411	1	2
萬曆22年	9月27日	屋喜内間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧6年	文禄3年	1594009027	裏打	楮紙	276	370	1	2
萬曆23年	正月12日	君南風大阿母知行安堵辞令書	尚寧7年	文禄4年	1595001012	—	—	—	—	—	—
萬曆23年	8月29日	大宮古間切元首里大屋主所安堵辞令書	尚寧7年	文禄4年	1595008029	軸装	楮紙	287	825	3	3
萬曆23年	9月22日	瀬戸内西間切西役職補任辞令書	尚寧7年	文禄4年	1595009022	原形	楮紙	253	340	1	2
萬曆28年	正月24日	徳西銘間切手々のろ職補任辞令書	尚寧12年	慶長5年	1600001024	—	—	—	—	—	—
萬曆30年	9月10日	瀬戸内西間切古志のろ職補任辞令書	尚寧14年	慶長7年	1602009010	—	—	—	—	—	—
萬曆31年	10月17日	喜界島荒木間切荒木目差職補任辞令書	尚寧15年	慶長8年	1603010017	卷子	楮紙	279	345	1	2
萬曆32年	閏9月18日	今帰仁間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧16年	慶長9年	1604009518	裏打	楮紙	272	371	1	2
萬曆33年	9月18日	今帰仁間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧17年	慶長10年	1605009018	—	—	—	—	—	—
萬曆34年	8月11日	謝国富引里主部家来赤頭船頭職補任辞令書	尚寧18年	慶長11年	1606008011	卷子	楮紙	278	450	2	3
萬曆34年	11月28日	喜界島荒木間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧18年	慶長11年	1606011028	卷子	楮紙	279	395	1	2
萬曆35年	閏6月6日	名瀬間切朝戸掟職補任辞令書(写)	尚寧19年	慶長12年	1607006506	原形	楮紙	275	405	1	2
萬曆35年	7月15日	今帰仁間切具志川のろ職補任並知行安堵辞令書	尚寧19年	慶長12年	1607007015	裏打	楮紙	263	408	2	2
萬曆37年	2月11日	名瀬間切西里主所安堵辞令書(写)	尚寧21年	慶長14年	1609002011	原形	楮紙	275	405	1	2
萬曆40年	12月1日	今帰仁間切切儀間主所安堵辞令書	尚寧24年	慶長17年	1612012099	裏打	楮紙	254	397	1	—
天啓2年	10月1日	羽地間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐2年	元和8年	1622010001	—	—	—	—	—	—
天啓5年	4月20日	羽地間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐5年	寛永2年	1625004020	軸装	竹紙	282	465	1	2
天啓6年	8月28日	八重山間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐6年	寛永3年	1626008028	—	—	245	387	1	—
天啓7年	6月22日	真和志間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐7年	寛永4年	1627006022	卷子	竹紙	295	455	1	2
天啓8年	4月28日	仕上世奉行職補任辞令書	尚豐8年	寛永5年	1628004028	卷子	竹紙	296	430	1	2
崇禎4年	9月2日	大宮古間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐11年	寛永8年	1631009002	額装	竹紙	288	398	1	2
崇禎4年	12月25日	真和志間切切儀間主所安堵辞令書	尚豐11年	寛永8年	1631012025	卷子	竹紙	282	438	1	2
崇禎7年	8月8日	勢遣富引里主部家来赤頭殿職補任辞令書	尚豐14年	寛永11年	1634008008	卷子	竹紙	284	454	1	2
光弘元年	8月10日	大宮古間切切儀間主所安堵辞令書	尚賢5年	正保2年	1645008010	額装	竹紙	276	394	1	2
隆武3年	8月28日	大宮古間切切儀間主所安堵辞令書	尚賢6年	正保3年	1646008028	額装	竹紙	277	388	1	2
順治9年	10月9日	大宮古間切切儀間主所安堵辞令書	尚質5年	承応元年	1652110009	—	—	264	358	1	—
順治16年	6月15日	渡嘉敷島首里大屋主所安堵辞令書	尚質12年	万治2年	1659006015	裏打	楮紙	242	331	1	2

表 1 (1) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	名称	琉球年号	和年号	西曆	形態	紙質	縦	横	紙数	印章
70	□□□年	渡名喜島首里大屋主職補任辞令書	尚質13年	万治 3年	9999199999	裏打	楮紙	233	331	1	2
71	順治17年	勢高富引里主部家来赤頭筑殿職補任辞令書	尚貞3年	寛文11年	1660012015	卷子	楮紙	295	374	1	2
72	康熙10年	真和志間切儀間里主所知行安堵辞令書	尚貞30年	元禄11年	1671001017	卷子	竹紙	295	374	1	2
73	康熙37年	豐見城間切田頭里主所安堵辞令書	尚貞37年	宝永 2年	1698005016	卷子	竹紙	293	448	1	2
74	康熙44年	羽地間切我部祖河大屋主職補任辞令書	尚貞41年	宝永 6年	1705008018	卷子	竹紙	290	450	1	2
75	康熙48年	小禄間切儀間里主所安堵辞令書	尚益2年	正徳元年	1709011004	裏打	竹紙	275	405	1	2
76	康熙50年	久米仲里間切比嘉大屋主職補任辞令書	尚益3年	正徳 2年	1711106003	卷子	竹紙	280	420	1	2
77	康熙51年	兼城間切武富里主所安堵辞令書	尚敬元年	正徳 3年	1712006017	裏打	竹紙	279	401	1	2
78	康熙52年	久米仲里間切比嘉大屋主職補任辞令書	尚敬元年	正徳 3年	1713009013	卷子	竹紙	274	425	1	2
79	康熙52年	鍛冶奉行職補任辞令書	尚敬5年	享保 2年	1713012012	裏打	竹紙	289	405	1	2
80	康熙56年	久米仲里間切比嘉大屋主職補任辞令書	尚敬6年	享保 3年	1717004007	裏打	竹紙	278	433	1	2
81	康熙57年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚敬8年	享保 5年	1718001026	卷子	竹紙	285	445	1	2
82	康熙59年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚敬12年	享保 9年	1720006015	折本	竹紙	282	449	1	2
83	雍正 2年	渡嘉敷間切阿波連里主所安堵辞令書	尚敬20年	享保17年	1724002016	折本	竹紙	267	405	1	2
84	雍正10年	御物城職補任辞令書	尚敬20年	享保17年	1732002006	卷子	竹紙	266	380	1	2
85	雍正10年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚敬21年	享保18年	1732004022	折本	竹紙	275	429	1	2
86	雍正11年	具志頭間切喜納里主所安堵辞令書	尚敬24年	元文元年	1733012006	裏打	竹紙	275	438	1	2
87	乾隆元年	伊平屋島銘苅大屋主職補任辞令書	尚敬29年	寛保元年	1736104029	裏打	竹紙	275	445	1	2
88	乾隆 6年	伊平屋島銘苅大屋主職補任辞令書	尚敬35年	延享 4年	1741107010	裏打	竹紙	337	430	1	2
89	乾隆12年	今帰仁間切惣地頭職補任辞令書	尚敬37年	寛延 2年	1747006006	卷子	竹紙	317	447	1	2
90	乾隆14年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚敬38年	寛延 3年	1749007019	折本	竹紙	331	470	1	2
91	乾隆15年	恩納間切名嘉真里主所安堵辞令書	尚穆5年	宝暦 6年	1750012020	裏打	竹紙	333	364	1	2
92	乾隆21年	越來間切諸見里主所安堵辞令書	尚穆8年	宝暦 9年	1756004001	卷子	竹紙	270	445	1	2
93	乾隆24年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚穆9年	宝暦10年	1759012001	庚辰	竹紙	334	462	1	2
94	乾隆25年	諸見里親雲上真守知行高安堵辞令書	尚穆11年	宝暦12年	1760012001	軸装	竹紙	307	416	1	2
95	乾隆27年	八重山頭大浜首里大屋主職補任辞令書	尚穆17年	明和 5年	1762008021	卷子	竹紙	315	430	1	2
96	乾隆33年	渡嘉敷間切惣地頭職補任辞令書	尚穆18年	明和 6年	1768002027	裏打	竹紙	330	465	1	2
97	乾隆34年	越來間切諸見里主所安堵辞令書	尚穆20年	明和 8年	1769008024	折本	竹紙	336	479	1	2
98	乾隆36年	読谷山間切古堅里主所安堵辞令書	尚穆21年	安永元年	1771006001	卷子	竹紙	314	452	1	2
99	乾隆37年	久志間切有銘安堵辞令書	尚穆24年	安永 4年	1772112001	軸装	竹紙	322	450	1	2
100	乾隆40年	八重山島頭宮良大浜首里大屋主職補任辞令書	尚穆24年	安永 4年	1775009026	軸装	竹紙	307	428	1	2
101	乾隆40年	八重山島頭大浜首里大屋主職補任辞令書	尚穆26年	安永 6年	1775009026	軸装	竹紙	321	406	1	2
102	乾隆42年	八重山島頭大浜首里大屋主職補任辞令書	尚穆28年	安永 8年	1777004012	卷子	竹紙	315	444	1	2
103	乾隆44年	伊平屋島田名里主所安堵辞令書	尚穆31年	天明 2年	1779004013	折本	竹紙	340	465	1	2
104	乾隆47年	御物城職補任辞令書			1782002001	折本	竹紙				

表 1 (1) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	名称	琉球年号	和年号	西曆	形態	紙質	縦	横	紙数	印章
105 乾隆47年	5月 3日	越来間切諸見里里主所安堵辞令書	尚穆31年	天明 2年	1782005003	裏打	竹紙	348	462	1	2
106 乾隆47年	10月18日	玉城間切屋嘉部里主所安堵辞令書	尚穆31年	天明 2年	1782010018	折本	竹紙	338	470	1	2
107 乾隆50年	4月26日	玉城間切屋嘉部里主所安堵辞令書	尚穆34年	天明 5年	1785004026	折本	竹紙	338	472	1	2
108 乾隆52年	5月13日	八重山島頭大浜大首里大屋主職補任辞令書	尚穆36年	天明 7年	1787005013	軸装	竹紙	320	414	1	2
109 乾隆58年	10月 1日	越来間切諸見里里主所安堵辞令書	尚穆42年	寛政 5年	1793010001	裏打	竹紙	339	468	1	2
110 嘉慶 2年	6月21日	八重山島頭大浜大首里大屋主職補任辞令書	尚温 3年	寛政 9年	1797006021	軸装	竹紙	320	416	1	2
111 嘉慶10年	5月12日	伊平屋島田名里主所安堵辞令書	尚顯 2年	文化 2年	1805005012	卷子	竹紙	314	433	1	2
112 嘉慶11年	6月 1日	宮古島頭平良大首里大屋主職補任辞令書	尚顯 3年	文化 3年	1806006001	軸装	竹紙	284	410	1	2
113 嘉慶17年	4月 1日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚顯 9年	文化 9年	1812004001	軸装	竹紙	307	428	1	2
114 嘉慶19年	8月27日	具志川間切兼ヶ段里主安堵辞令書	尚顯11年	文化11年	1814008027	仮装	竹紙	332	465	1	2
115 嘉慶24年	8月16日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚顯16年	文政 2年	1819008016	軸装	竹紙	321	412	1	2
116 道光元年	6月 7日	大里間切古堅里主安堵辞令書	尚顯18年	文政 4年	1821006007	仮装	竹紙	332	456	1	2
117 道光元年	10月 2日	宮古島頭平良大首里大屋主職補任辞令書	尚顯18年	文政 4年	1821010002	軸装	竹紙	315	410	1	2
118 道光 9年	5月18日	美里間切惣地頭職補任并知行安堵辞令書	尚顯26年	文政12年	1829005018	裏打	竹紙	324	450	1	2
119 道光11年	7月 9日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚顯28年	天保 2年	1831007009	軸装	竹紙	306	428	1	2
120 道光12年	10月 3日	伊平屋島田名里主所安堵辞令書	尚顯29年	天保 3年	1832010003	卷子	竹紙	314	427	1	2
121 道光18年	12月 1日	中議大夫職補任辞令書	尚育 4年	天保 9年	1838012001			310	455	1	
122 道光22年	7月25日	宮古島頭砂川大首里大屋主職補任辞令書	尚育 8年	天保13年	1842007025	軸装	竹紙	302	411	1	2
123 道光23年	閏 7月29日	八重山島大阿母職補任辞令書	尚育 9年	天保14年	1843007529	軸装	竹紙	308	441	1	2
124 道光28年	2月 1日	正議大夫職補任辞令書	尚泰元年	嘉永元年	1848102001			310	452	1	
125 道光28年	2月 1日	久志間切有銘知行安堵辞令書	尚泰元年	嘉永元年	1848102001			310	462	1	
126 道光30年	12月 6日	伊平屋島田名里主所安堵辞令書	尚泰 3年	嘉永 3年	1850012006	卷子	竹紙	314	451	1	2
127 咸豐元年	3月26日	宮古島頭下地大首里大屋主職補任辞令書	尚泰 4年	嘉永 4年	1851003026	軸装	竹紙	323	459	1	2
128 咸豐元年	8月 1日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚泰 4年	嘉永 4年	1851008001	軸装	竹紙	319	455	1	2
129 咸豐元年	8月11日	八重山島大阿母職補任辞令書	尚泰 4年	嘉永 4年	1851008011	軸装	竹紙	310	441	1	2
130 咸豐 6年	9月25日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚泰 9年	安政 3年	1856009025	軸装	竹紙	296	408	1	2
131 咸豐 8年	11月 6日	周大光阿賀嶺親方知行安堵辞令書	尚泰11年	安政 5年	1858011006	裏打	竹紙	328	457	1	2
132 咸豐12年	5月22日	三司官職補任并知行安堵辞令書	尚泰15年	文久 2年	1862005022	—	—				
133 同治 2年	3月29日	宮古島頭平良大首里大屋主職補任辞令書	尚泰16年	文久 3年	1863003029	軸装	竹紙	315	397	1	2
134 同治 5年	2月 1日	御物城職補任辞令書	尚泰19年	慶応 2年	1866002001	折本	竹紙	331	460	1	2
135 同治 5年	2月 1日	南風原間切仲本安堵辞令書	尚泰19年	慶応 2年	1866002001	折本	竹紙	331	461	1	2
136 同治 6年	8月 1日	宜野湾間切新城里主所安堵辞令書	尚泰20年	慶応 3年	1867008001	折本	竹紙	330	464	1	2
137 同治 6年	9月 5日	八重山島頭石垣大首里大屋主職補任辞令書	尚泰20年	慶応 3年	1867009005	軸装	竹紙	303	426	1	2
138 同治11年	8月25日	八重山島頭宮良大首里大屋主職補任辞令書	尚泰25年	明治 5年	1872008025	軸装	竹紙	311	410	1	2

表 1 (1) 琉球国辞令書一覽

	年号	月日	名称	琉球年号	和年号	西曆	形態	紙質	縦	横	紙数	印章
139	同治12年	9月14日	美里間切伊波里主所安堵辞令書	尚泰26年	明治 6年	1873009014	—	—				
140	同治13年	8月29日	宮古島頭平良大首里大屋子職補任辞令書	尚泰27年	明治 7年	1874008029	軸装	竹紙	325	375	1	2

表 1 (2) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	干支	紙質	書出	差出	充名	内容	文体
1 嘉靖 2 年	8 月 26 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	しほたるもい	渡明船宝丸官舎職補任	仮名文体
2 嘉靖 3 年	4 月 20 日	無	—	しよりの御み事	しよより	こちひらの大やくもい	北庫理東風平大屋子もいへ知行安堵	仮名文体
3 嘉靖 8 年	12 月 29 日	無	—	しよりの御み事	しよより	ちやくもい	笠利間切宇宿大屋子職補任	仮名文体
4 嘉靖 13 年	嘉靖 14 年 頃	無	—	しよりの御み事	しよより	かさりのひかせと	瀬戸内東間切首里大屋子職補任	仮名文体
5 嘉靖 15 年	5 月 13 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	くわんしや	西原間切天久里主所安堵	仮名文体
6 嘉靖 16 年	8 月 10 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	あめくの大やくもい	渡明船世統富船頭職補任	仮名文体
7 嘉靖 20 年	8 月 20 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	まさふろてこく	渡南蛮船勢治荒富船頭職補任	仮名文体
8 嘉靖 24 年	11 月 6 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	あめくの大やくもい	真和志間切儀間金城里主所安堵	仮名文体
9 嘉靖 27 年	10 月 28 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	ひかのしよりの大やくもい	瀬戸内西間切西大屋子職補任	仮名文体
10 嘉靖 30 年	4 月 13 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	かなくすくの大やくもい	真和志間切儀間里主所安堵	仮名文体
11 嘉靖 33 年	8 月 29 日	無	—	しよりの御み事	しよより	さわのおきて	喜界志戸橋間切大城大屋子職補任	仮名文体
12 嘉靖 33 年	12 月 27 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	たらつおはん	屋喜内間切名音旋職補任	仮名文体
13 嘉靖 35 年	8 月 11 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	なのおんのおきて	屋喜内間切名柄旋職補任	仮名文体
14 嘉靖 39 年	8 月 8 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	せそこの大やくもい	豊見城間切大嶺里主所安堵	仮名文体
15 嘉靖 41 年	12 月 5 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	大みねの大やくもい	相応富引家来赤頭船頭職補任	仮名文体
16 嘉靖 42 年	11 月 10 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	大みねの大やくもい	勢治荒富引里主部家来赤頭船頭職補任	仮名文体
17 嘉靖 45 年	10 月 8 日	無	—	しよりの御み事	しよより	きせの大やくもい	笠利間切笠利首里大屋子職補任	仮名文体
18 隆慶 2 年	8 月 24 日	無	—	しよりの御み事	しよより	きせの大やくもい	瀬戸内東間切首里大屋子職補任	仮名文体
19 隆慶 2 年	8 月 24 日	無	—	しよりの御み事	しよより	きせの大やくもい	鬼界東間切阿田のろ職補任	仮名文体
20 隆慶 3 年	正月 5 日	無	—	しよりの御み事	しよより	ゑくかたる	瀬戸内東間切阿木名目差職補任	仮名文体
21 隆慶 5 年	6 月 11 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	なからのおきて	屋喜内間切先原目差職補任	仮名文体
22 隆慶 6 年	正月 18 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	あくにやめさし	屋喜内間切屋喜内大屋子職補任	仮名文体
23 隆慶 6 年	正月 18 日	無	—	しよりの御み事	しよより	やまとはまめさし	瀬戸内西間切須古茂ねたち知行安堵	仮名文体
24 萬曆 2 年	5 月 28 日	無	楮紙	(欠)	しよより	ねたち	瀬戸内西間切須古茂ねたち知行安堵	仮名文体
25 萬曆 2 年	5 月 28 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	ねたち	瀬戸内西間切須古茂ねたち知行安堵	仮名文体
26 萬曆 2 年	5 月 28 日	無	—	しよりの御み事	しよより	さかい	瀬戸内西間切古志さかい知行安堵	仮名文体
27 萬曆 2 年	5 月 28 日	無	楮紙	しよりの御み事	しよより	たる	瀬戸内西間切須古茂たる知行安堵	仮名文体
28 萬曆 5 年	9 月 6 日	無	—	しよりの御み事	しよより	屋けうちの大やくもい	屋喜内間切部連大屋子職補任	仮名文体
29 萬曆 7 年	5 月 5 日	無	—	しよりの御み事	しよより	もとのひかのしよりの大やくもい	名瀬間切首里大屋子職補任	仮名文体
30 萬曆 7 年	10 月 1 日	無	—	しよりの御み事	しよより	おとますもい	那覇大阿母職補任	仮名文体
31 萬曆 10 年	8 月 2 日	無	—	しよりの御み事	しよより	おとますもい	真和志間切内ま内地知行安堵	仮名文体
32 萬曆 10 年	8 月 2 日	無	—	しよりの御み事	しよより	おとますもい	屋喜内間切名柄のろ職補任	仮名文体
33 萬曆 11 年	正月 27 日	無	竹紙	しよりの御み事	しよより	つる	—	—
34 萬曆 12 年	5 月 12 日	無	—	—	—	—	—	—
35 萬曆 14 年	5 月 9 日	無	—	—	—	—	—	—

表 1 (2) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	干支	紙質	書出	差出	充名	内容	文体
36 萬曆15年	2月12日	—	—	—	—	—	—	—
37 萬曆15年	2月12日	—	—	—	—	—	—	—
38 萬曆15年	7月 8日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	しよりの大やこ	伊平屋仲田里主所安堵	仮名文体
39 萬曆15年	10月 4日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	まくも	名瀬間切大熊のろ職補任	仮名文体
40 萬曆16年	5月27日	無	—	しよりの御み事	しよりの御み事	宇宿の大屋子	瀬戸内東間切首里大屋子職補任	仮名文体
41 萬曆20年	10月 3日	—	—	—	—	—	—	—
42 萬曆21年	5月16日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	きまのさとぬし大やくもい	真和志間切儀間里主所安堵	仮名文体
43 萬曆22年	9月27日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	かなし	屋喜内間切屋鈍のろ職補任	仮名文体
44 萬曆23年	正月12日	—	—	—	—	—	—	—
45 萬曆23年	8月29日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	しよりの大しより大やこ	大宮古間切元首里大屋子知行地内給付	仮名文体
46 萬曆23年	9月22日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	いんほし大さち	瀬戸内西間切西掟職補任	仮名文体
47 萬曆28年	正月24日	無	—	しよりの御み事	しよりの御み事	まなへたる	徳西銘間切手々のろ職補任	仮名文体
48 萬曆30年	9月10日	無	—	しよりの御み事	しよりの御み事	まかるもい	瀬戸内西間切古志のろ職補任	仮名文体
49 萬曆31年	10月17日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	てくつくのおきて	喜界島荒木間切荒木目差職補任	仮名文体
50 萬曆32年	閏 9月18日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	うしのかはんのあくかへのさ	今帰仁間切辺名地目差職補任	仮名文体
51 萬曆33年	9月18日	無	—	しよりの御み事	しよりの御み事	まうし	今帰仁間切中城のろ職補任	仮名文体
52 萬曆34年	8月11日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	おしあけとみかせんとう大や	謝国富引里主部家来赤頭船頭職補任	仮名文体
53 萬曆34年	11月28日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	あらきめさし	喜界島荒木間切てくさく大屋子職補任	仮名文体
54 萬曆35年	閏 6月 6日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	いしめいこく	名瀬間切朝戸掟職補任	仮名文体
55 萬曆35年	7月15日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	まかとう	今帰仁間切志川のろ職補任並知行安堵	仮名文体
56 萬曆37年	2月11日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	あさとおきて	名瀬間切西里主職補任	仮名文体
57 萬曆40年	12月 1日	無	楮紙	しよりの御み事	しよりの御み事	みのかはんの口口	今帰仁間切謝花掟職補任	仮名文体
5 天啓 2年	10月 1日	無	—	首里の御み事	—	ひやか	羽地間切大のろくもい職補任	仮名文体
5 天啓 5年	4月20日	無	竹紙	首里の御み事	—	おとう	羽地間切屋嘉のろ職補任	仮名文体
60 天啓 6年	8月28日	無	—	首里の御み事	—	—	—	—
61 天啓 7年	6月22日	無	竹紙	首里の御み事	—	きまの大やくもい	真和志間切儀間里主所安堵	仮名文体
62 天啓 8年	4月28日	無	竹紙	首里の御み事	—	儀間の里之子大やくもひ	仕上世奉行職補任	仮名文体
63 崇禎 4年	9月 2日	無	竹紙	首里の御み事	—	いるいんしめさし	—	—
64 崇禎 4年	12月25日	無	竹紙	首里の御み事	—	きまの里之子親雲上	真和志間切儀間里主部家来赤頭策殿職補任	仮名文体
65 崇禎 7年	8月 8日	無	竹紙	首里の御み事	—	きまの里之子	—	—
66 光弘 元年	8月10日	無	竹紙	首里の御み事	—	なかすしのめさし	—	—
67 隆武 3年	8月28日	無	竹紙	首里の御み事	—	中すじ与人	—	—
6 順治 9年	10月 9日	無	—	首里の御み事	—	まさり	大宮古間切水納目差職補任	仮名文体

表 1 (2) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	干支	紙質	書出	差出	充名	内容	文体
69 順治16年	6月15日	己亥	楮紙	首里之御み事	—	しよりの□□□□□□	渡名喜島□□□□□□首里大屋子補任	漢文体
70 □□□年	□月2*日	不詳	楮紙	首里之御口事	—	ももなみ	渡名喜島□□□□□□首里大屋子補任	漢文体
71 順治17年	12月15日	庚子	楮紙	首里之御み事	—	儀間し	勢高富引里主部家来赤頭筑殿補任	漢文体
72 康熙10年	正月17日	辛亥	竹紙	首里之御詔	—	儀間築登之親雲上	真和志間切儀間里主所知行安堵	漢文体
73 康熙37年	5月16日	戊寅	竹紙	首里之御詔	—	儀間築登之親雲上	豐見城間切田頭里主所安堵	漢文体
74 康熙44年	8月18日							
75 康熙48年	11月4日	己丑	竹紙	首里之御詔	—	前田頭親雲上	小祿間切儀間里主所安堵	漢文体
76 康熙50年	6月3日	辛卯	竹紙	首里之御詔	—	比嘉丹也	久米仲里間切比嘉大屋子補任	漢文体
77 康熙51年	6月17日	壬辰	竹紙	首里之御詔	—	儀間親雲上	兼城間切武富里主所安堵	漢文体
78 康熙52年	9月13日	癸巳	竹紙	首里之御詔	—	前比嘉親雲上	久米仲里間切比嘉大屋子補任	漢文体
79 康熙52年	12月12日	癸巳	竹紙	首里之御詔	—	武富親雲上	鍛冶奉行職補任	漢文体
80 康熙56年	4月7日	丁酉	竹紙	首里之御詔	—	比嘉丹也	久米仲里間切比嘉大屋子	漢文体
81 康熙57年	正月26日	戊戌	竹紙	首里之御詔	—	武富親雲上	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
82 康熙59年	6月15日	庚子	竹紙	首里之御詔	—	渡嘉敷登之親雲上	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
83 雍正2年	2月16日	甲辰	竹紙	首里之御詔	—	渡口地筑登之親雲上	渡嘉敷間切阿波連里主所安堵	漢文体
84 雍正10年	2月6日	壬子	竹紙	□□□□□□	—	蔡氏安波連親雲上政房	御物城職補任	漢文体
85 雍正10年	4月22日	壬子	竹紙	首里之御詔	—	麻氏次男渡嘉敷子真富	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
86 雍正11年	12月6日	癸丑	竹紙	首里之御詔	—	蔡氏阿波連親雲上政房	具志頭間切惣地頭職補任	漢文体
87 乾隆元年	4月29日	丙辰	竹紙	首里之御詔	—	向氏猶子東江仁屋朝典	伊平屋島銘苅大屋子職補任	漢文体
88 乾隆6年	7月10日	辛酉	竹紙	首里之御詔	—	向氏猶子島尻筑登之朝義	伊平屋島銘苅大屋子職補任	漢文体
89 乾隆12年	6月6日	丁卯	竹紙	首里之御詔	—	麻氏渡嘉敷登之親雲上真守	今帰仁間切惣地頭職補任	漢文体
90 乾隆14年	7月19日	己巳	竹紙	□□□□□□	—	麻氏嫡子渡嘉敷子真忠	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
91 乾隆15年	12月20日	庚午	竹紙	首里之御詔	—	嫡子□□政盛口納里之子親雲上	恩納間切名嘉真里主所安堵	漢文体
92 乾隆21年	4月1日	丙子	竹紙	首里之御詔	—	麻氏上運天親雲上真主	越來間切諸見里里主所安堵辞令書	漢文体
93 乾隆24年	12月1日	癸卯	竹紙	首里之御詔	—	麻氏渡嘉敷里子親雲上真勝	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
94 乾隆25年	12月1日	庚辰	竹紙	首里之御詔	—	麻氏諸見里親雲上真守	知行高武拾石安堵	漢文体
95 乾隆27年	8月21日	壬午	竹紙	首里之御詔	—	山陽氏西表首里大屋子長孝	八重山頭大浜大首里大屋子職補任	漢文体
96 乾隆33年	2月27日	戊子	竹紙	首里之御詔	—	麻氏嫡子渡嘉敷里之子親雲上真喜	渡嘉敷間切惣地頭職補任	漢文体
97 乾隆34年	8月24日	己丑	竹紙	首里之御詔	—	麻氏嫡子諸見里里主親雲上真弘	越來間切諸見里里主所安堵	漢文体
98 乾隆36年	6月1日	辛卯	竹紙	首里之御詔	—	蔡氏嫡子喜納里之子親雲上政知	読谷山間切古堅里主所安堵	漢文体
99 乾隆37年	12月1日	壬辰	竹紙	首里之御詔	—	麻氏嫡子儀間筑登之親雲上真	久志間切有銘安堵	漢文体

表 1 (2) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	干支	紙質	書出	差出	充名	内容	文体
99 乾隆40年	9月26日	乙未	竹紙	首里之御詔	-	長采氏桃原与人真般	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体
100 乾隆40年	9月26日	乙未	竹紙	首里之御詔	-	夏林氏川平与人賢永	八重山島頭大浜大首里大屋子職補任	漢文体
101 乾隆42年	4月12日	丁酉	竹紙	首里之御詔	-	山陽氏大川与人長致	八重山島頭大浜大首里大屋子職補任	漢文体
102 乾隆44年	4月13日	己亥	竹紙	首里之御詔	-	麻氏猶子渡嘉敷思龜真幸	伊平屋島田名里主所安堵	漢文体
103 乾隆44年	4月13日	己亥	竹紙	首里之御詔	-	蔡氏古堅親雲上政知	御物城職補任辞令書	漢文体
104 乾隆47年	2月1日	壬寅	竹紙	首里之御詔	-	麻氏嫡子諸見里里主親雲上真	越来間切諸見里里主所安堵	漢文体
105 乾隆47年	5月3日	壬寅	竹紙	首里之御詔	-	昆	越来間切諸見里里主所安堵	漢文体
106 乾隆47年	10月18日	壬寅	竹紙	首里之御詔	-	蔡氏古堅親雲上政知	玉城間切屋嘉部里主所安堵	漢文体
107 乾隆50年	4月26日	乙巳	竹紙	首里之御詔	-	蔡氏嫡子屋嘉部里主親雲上政	玉城間切屋嘉部里主所安堵	漢文体
108 乾隆52年	5月13日	丁未	竹紙	首里之御詔	-	松茂氏西表首里大屋子当克	八重山島頭大浜大首里大屋子職補任	漢文体
109 乾隆58年	10月1日	癸丑	竹紙	首里之御詔	-	麻氏嫡子諸見里里恩武太真恩	本部間切瀨底里主所安堵	漢文体
110 嘉慶2年	6月21日	丁巳	竹紙	首里之御詔	-	山陽氏西表首里大屋子長演	八重山島頭大浜大首里大屋子職補任	漢文体
111 嘉慶10年	5月12日	乙丑	竹紙	首里之御詔	-	麻氏嫡子田名子真英	伊平屋島田名里主所安堵	漢文体
112 嘉慶11年	6月1日	丁卯	竹紙	首里之御詔	-	白川氏友利首里大屋子惠寛	宮古島頭平良大首里大屋子職補任	漢文体
113 嘉慶17年	4月1日	壬申	竹紙	首里之御詔	-	森林氏西表首里大屋子賢則	八重山島頭切兼々段里大屋子職補任	漢文体
114 嘉慶19年	8月27日	甲戌	竹紙	首里之御詔	-	東氏嫡子天願里子親雲上政平	具志川間切切兼々段里大屋子職補任	漢文体
115 嘉慶24年	8月16日	己卯	竹紙	首里之御詔	-	松茂氏与那国首里大屋子当演	八重山島頭切兼々段里大屋子職補任	漢文体
116 道光元年	6月7日	辛巳	竹紙	首里之御詔	-	東氏兼々段親雲上政平	大里間切切兼々段里大屋子職補任	漢文体
117 道光元年	10月2日	辛巳	竹紙	首里之御詔	-	白川氏狩侯首里大屋子惠孝	宮古島頭平良大首里大屋子職補任	漢文体
118 道光9年	5月18日	己丑	竹紙	首里之御詔	-	毛氏嫡子嶋原樽全安綱	美里間切惣地頭補任並知行高三拾石知行安堵	漢文体
119 道光11年	7月9日	辛卯	竹紙	首里之御詔	-	夏林氏波照間首里大屋子賢栄	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体
120 道光12年	10月3日	壬辰	竹紙	首里之御詔	-	麻氏跡目田名里子親雲上真彬	伊平屋島田名里主所安堵	漢文体
121 道光18年	12月1日	壬寅	竹紙	首里之御詔	-	白川氏狩侯首里大屋子惠章	宮古島頭砂川大首里大屋子職補任	漢文体
122 道光22年	7月25日	癸卯	竹紙	首里之御詔	-	前大阿母嫁まひおま	八重山島大阿母職補任	漢文体
123 道光23年	7月29日	癸卯	竹紙	首里之御詔	-	周大光古謝通事親雲上	正議大夫補任	漢文体
124 道光28年	2月1日	庚戌	竹紙	首里之御詔	-	周大光古謝通事親雲上	久志間切有銘知行安堵	漢文体
125 道光28年	2月1日	庚戌	竹紙	首里之御詔	-	麻氏嫡子田名里子親雲上真儀	伊平屋島田名里主所安堵	漢文体
126 道光30年	12月6日	辛亥	竹紙	首里之御詔	-	向喬氏狩侯首里大屋子朝祥	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体
127 咸豐元年	3月26日	辛亥	竹紙	首里之御詔	-	山陽氏古見首里大屋子長房	八重山島大阿母職補任	漢文体
128 咸豐元年	8月1日	辛亥	竹紙	首里之御詔	-	女子いんづめい	八重山島大阿母職補任	漢文体
129 咸豐元年	8月11日	辛亥	竹紙	首里之御詔	-	夏林氏黒嶋首里大屋子賢保	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体
130 咸豐6年	9月25日	丙辰	竹紙	首里之御詔	-	夏林氏黒嶋首里大屋子賢保	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体

表 1 (2) 琉球国辞令書一覽

年号	月日	干支	紙質	書出	差出	充名	知行安堵	内容	文体
131 咸豊 8 年	11 月 6 日	戊午	竹紙	首里之御詔	—	周大光阿賀嶺親方	知行安堵		漢文体
132 咸豊 12 年	5 月 22 日	—	—	—	—	—	—	—	—
133 同治 2 年	3 月 29 日	癸亥	竹紙	首里之御詔	—	忠導氏狩俣首里大屋子玄安	宮古島頭平良大首里大屋子職補任	漢文体	漢文体
134 同治 5 年	2 月 1 日	丙寅	竹紙	首里之御詔	—	蔡氏嫡子屋嘉都里子親雲上政宣	御物城職補任	漢文体	漢文体
135 同治 5 年	2 月 1 日	丙寅	竹紙	首里之御詔	—	蔡氏嫡子屋嘉都里子親雲上政宣	南風原間切仲本安堵	漢文体	漢文体
136 同治 6 年	8 月 1 日	丁卯	竹紙	首里之御詔	—	蔡氏仲本親雲上政宣	宜野灣間切新城里主所安堵	漢文体	漢文体
137 同治 6 年	9 月 5 日	丁卯	竹紙	首里之御詔	—	山陽氏古見首里大屋子長有	八重山島頭石垣大首里大屋子職補任	漢文体	漢文体
138 同治 11 年	8 月 25 日	壬申	竹紙	首里之御詔	—	松茂氏古見首里大屋子当宗	八重山島頭宮良大首里大屋子職補任	漢文体	漢文体
139 同治 12 年	9 月 14 日	—	—	—	—	—	—	—	—
140 同治 13 年	8 月 29 日	甲戌	竹紙	首里之御詔	—	土原氏松原首里大屋子春信	宮古島頭平良大首里大屋子職補任	漢文体	漢文体

表 2 琉球国王起請文

琉球年号	和年号	西曆	文書名	内容	本紙紙質	本紙寸法	神文紙質	牛王紙	牛王法量	紙数
1 尚寧23年	慶長16年	1611009099	琉球国中山王尚寧起請文	永止帰郷之恩、对薩州不可存疎意	楮紙引合	36.0×62.1	斐紙間似合	那智滝	21.4×29.6	8 紙
2 尚豐19年	寛永16年	1639002011	琉球国司尚豐起請文	成任太守職	斐紙間似合	20.5×42.8	斐紙間似合	那智滝	20.6×30.7	8 紙
3 尚賢7年	正保4年	1647004021	琉球国司尚賢起請文	此邦相統、毛頭不可相隨逆心之無道	楮紙奉書紙	21.1×30.7	斐紙	那智滝	21.1×30.6	8 紙
4 尚質4年	慶安2年	1649002007	琉球国司尚質起請文	此邦相統、毛頭不可相隨逆心之無道	楮紙奉書紙	21.6×34.0	斐紙	那智滝	21.5×29.6	8 紙
5 尚貞2年	寛文10年	1670005015	琉球国司尚貞起請文	先国司跡職被仰付	楮紙奉書紙	33.6×50.4	斐紙間似合	那智滝	21.1×30.0	8 紙
6 尚益元年	宝永7年	1710005099	琉球国司尚益起請文	先国司跡職被仰付	斐紙烏子	33.4×70.8	斐紙間似合	那智滝	20.7×26.5	8 紙
7 尚敬3年	正徳5年	1715005003	琉球国中山王尚敬起請文	先国司跡職相統二付	斐紙間似合	32.6×70.4	楮紙杉原	那智滝	23.1×31.0	8 紙
8 尚穆4年	宝曆5年	1755005009	琉球国中山王尚穆起請文	先国司跡職被仰付、貴国之下知毛頭別心有間敷	斐紙烏子	35.4×60.2	楮紙美濃紙	那智滝	21.7×26.5	8 紙
9 尚穆36年	天明7年	1787006006	琉球国中山王尚穆起請文	先国司跡職被仰付	斐紙烏子	35.5×91.8	斐紙薄楮	那智滝	22.6×26.1	8 紙
10 尚温6年	寛政12年	1800004015	琉球国中山王尚温起請文	先国司跡職被仰付	斐紙間似合	35.5×79.0	斐紙薄楮	那智滝	19.7×28.8	8 紙
11 尚顯2年	文化2年	1805005009	琉球国中山王尚顯起請文	先国司跡職被仰付	斐紙間似合	35.5×79.0	楮紙杉原	那智滝	21.0×26.7	8 紙
12 尚顯7年	文化7年	1810004029	琉球国中山王尚顯起請文	先国司跡職被仰付	斐紙間似合	35.4×88.0	楮紙杉原	熊野山	21.5×24.7	8 紙
13 尚育年	文政11年	1828005012	琉球国中山王尚育起請文	尚顯隱居、家督被仰付、貴国之下知毛頭別心有間敷	斐紙間似合	35.4×80.4	楮紙杉原	那智滝	21.7×24.6	8 紙
14 尚泰11年	安政5年	1858005009	琉球国中山王尚泰起請文	先国司跡職被仰付、貴国之下知毛頭別心有間敷	斐紙間似合	35.4×80.2	三桎紙	那智滝	21.9×23.0	8 紙
15 尚泰12年	安政6年	1859005006	琉球国中山王尚泰起請文	先国司跡職被仰付、家督相統	斐紙間似合	35.4×92.0	楮紙杉原	那智滝	24.0×24.9	8 紙

表3 琉球国摄政起請文

和年号	西曆	文書名	内容	本文紙質	本文法量	神文紙質	神文法量	牛王	紙数
1 慶長20年	1615006099	佐敷王子朝昌起請文	敕帰国、任攝政	竹紙	28.4×62.1	斐紙間似合	21.9×28.5	那智滝	2紙
2 正徳3年	1713005099	豊見城王子朝騎起請文	小禄王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	36.0×47.5	楮紙杉原	23.3×28.0	那智滝	9紙
3 享保8年	1723005016	北谷王子朝義起請文	去歳豊見城王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	37.5×53.0	楮紙美濃紙	24.1×34.0	熊野本宮	8紙
4 宝暦6年	1756003028	今帰仁王子朝義起請文	北谷王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.4×52.2	楮紙杉原	19.9×26.4	那智滝	8紙
5 明和8年	1771004006	読谷山王子朝恒起請文	今帰仁王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.2×52.8	楮紙杉原	24.3×27.8	那智滝	8紙
6 寛政7年	1795005004	浦添王子朝宣起請文	読谷山王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.5×52.5	楮紙杉原	20.5×27.2	熊野山	8紙
7 寛政11年	1799005008	義村王子朝英起請文	去歳浦添王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.0×47.1	斐紙間似合	20.6×28.6	那智滝	8紙
8 文化元年	1804105014	読谷山王子朝救起請文	義村王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.0×51.5	楮紙杉原	21.4×29.1	那智滝	8紙
9 文化7年	1810005003	読谷山王子朝祥起請文	攝政役被仰付	楮紙奉書紙	37.8×52.9	楮紙杉原	21.4×24.6	那智滝	8紙
10 文化15年	1818005024	宜野湾王子朝美起請文	去歳読谷山王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.1×53.2	楮紙杉原	21.2×24.0	那智滝	8紙
11 文政6年	1823005012	羽地王子朝春起請文	去歳宜野湾王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.2×52.0	楮紙杉原	22.2×24.3	那智滝	8紙
12 天保3年	1832005007	豊見城王子朝憲起請文	去歳羽地王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	37.5×51.8	楮紙杉原	22.1×24.0	那智滝	8紙
13 天保7年	1836004028	浦添王子朝憲起請文	去歳豊見城王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	37.3×51.3	楮紙杉原	20.5×22.2	那智滝	8紙
14 嘉永4年	1851005022	浦添王子朝教起請文	攝政役被仰付	楮紙奉書紙	37.7×52.1	楮紙杉原	22.4×26.5	那智滝	8紙
15 嘉永5年	1852005021	大里王子朝教起請文	浦添王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.4×52.6	楮紙杉原	23.3×25.1	那智滝	8紙
16 安政6年	1859005006	大里王子朝教起請文	攝政役被仰付	楮紙奉書紙	38.7×51.9	楮紙杉原	24.0×26.5	那智滝	8紙
17 万延2年	1861004024	与那城王子朝紀起請文	大里王子跡役被仰付	楮紙奉書紙	38.1×51.5	楮紙杉原	24.0×29.5	那智滝	8紙

表 4 琉球国三司官起請文

和年号	西曆	文書名	本文	本紙紙質	本紙寸法	神文紙質	神文寸法	牛王	紙数
1 元禄13年	1700004026	池城安倚起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	32.5×43.1	斐紙間似合	21.2×30.1	那智滝	8 紙
2 元禄14年	1701004020	田場良衆起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	35.8×45.8	楮紙杉原	23.6×29.6	熊野山	8 紙
3 元禄16年	1703004018	識名盛命起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	35.4×49.0	斐紙間似合	20.8×28.7	那智滝	8 紙
4 宝永 2年	1705012018	越來朝奇起請文	北谷按司跡役	楮紙奉書紙	33.6×49.2	斐紙間似合	20.8×29.0	那智滝	8 紙
5 宝永 8年	1711004025	田島朝由起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	39.0×49.7	楮紙交り斐紙	23.1×29.3	那智滝	8 紙
6 宝永 8年	1711004025	浦添良意起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	39.0×49.6	斐紙間似合	23.0×27.5	那智滝	8 紙
7 正徳 3年	1713005099	伊舎堂盛富起請文	去歳三司官役被仰付	楮紙奉書紙	36.0×48.9	斐紙間似合	20.5×29.3	那智滝	9 紙
8 享保 2年	1717005009	勝連盛祐起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.7×44.0	斐紙間似合	20.8×29.1	那智滝	8 紙
9 享保 5年	1720005020	西平朝叙起請文	去歳任三司官役	楮紙奉書紙	37.4×51.1	楮紙杉原	25.2×32.0	那智滝	8 紙
10 享保 8年	1723005016	大城朝章起請文	去歳三司官役被仰付	楮紙奉書紙	37.5×51.5	楮紙美濃紙	23.9×33.9	熊野山	8 紙
11 享保 9年	1724004023	摩文仁安政起請文			36.9×48.9		22.9×29.2		8 紙
12 享保11年	1726005016	嵩原安満起請文	三司官役被仰付	楮紙奉書紙	36.9×48.1	斐紙薄様	20.9×27.4	那智滝	8 紙
13 享保14年	1729001026	具志頭文若起請文	去歳任三司官役	楮紙引合	36.2×49.5	楮紙美濃紙	22.5×26.9	那智滝	8 紙
14 享保21年	1736003006	謝名朝栄起請文	去年任三司官役	楮紙引合	37.0×45.5	楮紙美濃紙	22.7×29.8	那智滝	8 紙
15 延享 3年	1746003026	今帰仁朝見起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.2×52.4	楮紙美濃紙	25.2×35.3	彦山	8 紙
16 延享 3年	1746003026	宜野湾朝雅起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.2×52.3	楮紙美濃紙	25.3×36.2	彦山	8 紙
17 延享 3年	1746003026	今帰仁朝見起請文	去年任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×52.6	楮紙美濃紙	25.1×35.3	彦山	8 紙
18 延享 3年	1746003026	宜野湾朝雅起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.2×52.7	楮紙美濃紙	25.3×36.3	彦山	8 紙
19 寛延 4年	1751005018	座喜味盛秀起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.6×44.2	楮紙美濃紙	21.2×27.2	彦山	8 紙
20 宝曆 3年	1753003023	与那原良暢起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×46.8	楮紙杉原紙	22.4×28.8	那智滝	8 紙
21 宝曆 3年	1753003023	東風平朝衛起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×47.0	漉返紙	22.4×28.8	那智滝	8 紙
22 宝曆 6年	1756003028	宮平良廷起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.4×49.1	楮紙杉原紙	21.2×26.0	那智滝	8 紙
23 宝曆 6年	1756003028	浦添安蔵起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.5×48.8	楮紙杉原紙	21.3×26.1	那智滝	8 紙
24 宝曆11年	1761002001	池城安命起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.9×46.0	楮紙杉原紙	21.8×30.6	那智滝	8 紙
25 明和 3年	1766003019	湧川朝喬起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.7×48.1	楮紙杉原紙	23.4×31.3	那智滝	8 紙
26 明和 7年	1770002026	与那原良矩起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.7×45.3	楮紙杉原紙	21.2×25.8	那智滝	8 紙
27 安永 8年	1779005015	譜久山朝紀起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.7×48.2	楮紙杉原紙	23.6×31.0	那智滝	8 紙
28 天明 2年	1782002022	伊江朝慶起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.7×47.5	楮紙杉原紙	21.5×28.0	那智滝	8 紙
29 天明 7年	1787006006	譜久山朝紀起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×50.6	楮紙杉原紙	22.7×27.2	那智滝	8 紙
30 天明 7年	1787006006	与那原良矩起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×50.8	楮紙杉原紙	23.0×27.0	那智滝	8 紙
31 天明 7年	1787006006	伊江朝慶起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.4×50.7	楮紙杉原紙	23.0×27.2	那智滝	8 紙
32 寛政 9年	1797005012	幸地良篤起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	35.3×44.5	楮紙杉原紙	24.0×32.0	那智滝	8 紙
33 寛政11年	1799005008	与那原良頭起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.1×41.0	斐紙薄様	20.5×26.9	那智滝	8 紙
34 寛政11年	1799005008	嵩原安執起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.1×41.8	斐紙薄様	20.4×28.3	那智滝	8 紙
35 享和 2年	1802005028	喜屋武朝昶起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	35.0×44.5	楮紙杉原	21.3×29.4	那智滝	8 紙

表 4 琉球国三司官起請文

和年号	西曆	文書名	本文	本紙紙質	本紙寸法	神文紙質	神文寸法	牛王	紙数
36 文化元年	1804105014	佐渡山安春起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.4×45.6	楮紙杉原	21.4×29.0	那智滝	8紙
37 文化3年	1806005003	与那原良成起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	36.6×49.3	楮紙杉原	20.3×27.4	熊野山	8紙
38 文化7年	1810005003	与那原良成起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.8×52.2	楮紙杉原	21.4×24.8	那智滝	8紙
39 文化7年	1810005003	嵩原安執起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.8×52.8	斐紙	21.4×24.4	那智滝	8紙
40 文化7年	1810006008	佐渡山安春起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.7×52.9	楮紙杉原	21.1×24.6	那智滝	8紙
41 文化13年	1816005006	伊江朝安起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.6×51.7	楮紙杉原	20.9×24.6	那智滝	8紙
42 文政2年	1819004021	玉城盛林起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.8×50.7	楮紙杉原	20.8×23.6	那智滝	8紙
43 文政5年	1822005009	伊舎堂盛元起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.5×45.8	楮紙杉原	21.1×24.0	那智滝	8紙
44 文政7年	1824005013	池城安昆起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.4×47.7	楮紙杉原	21.6×24.7	那智滝	8紙
45 文政10年	1827005011	座喜味盛珍起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.5×47.1	楮紙杉原	21.8×23.5	那智滝	8紙
46 文政11年	1828005008	与那原良綱起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.0×49.8	楮紙杉原	21.7×24.4	那智滝	8紙
47 文政13年	1830004019	宜野湾朝昆起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.9×50.8	楮紙杉原	22.3×23.3	那智滝	8紙
48 天保7年	1836004028	東風平安度起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.3×51.4	楮紙杉原	20.6×23.3	那智滝	8紙
49 天保8年	1837005009	兼城朝恵起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	36.2×51.1	楮紙杉原	22.3×27.6	那智滝	8紙
50 天保11年	1840005008	小禄良恭起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	38.5×52.8	斐紙間似合	23.0×28.3	那智滝	6紙
51 天保12年	1841004024	国吉朝章起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.5×51.6	斐紙間似合	22.8×26.9	那智滝	8紙
52 弘化4年	1847005007	座喜味盛普起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.6×48.5	楮紙杉原	23.0×23.3	那智滝	8紙
53 弘化5年	1848004021	池城安邑起請文	今般任三司官役	楮紙奉書紙	37.2×45.2	楮紙杉原	21.9×23.5	那智滝	8紙
54 嘉永4年	1851005022	国吉朝章起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.5×52.6	楮紙杉原	22.3×26.5	那智滝	8紙
55 嘉永4年	1851005022	座喜味盛普起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.9×52.1	楮紙杉原	22.3×26.5	那智滝	8紙
56 嘉永4年	1851005022	池城安邑起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	37.8×52.6	楮紙杉原	22.2×27.1	那智滝	8紙
57 嘉永5年	1852006006	金武正孟起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.2×52.2	楮紙杉原	23.7×26.2	那智滝	8紙
58 安政2年	1855003022	幸地朝憲起請文	去藏任三司官役	楮紙奉書紙	37.7×48.7	楮紙杉原	24.0×26.6	那智滝	8紙
59 安政5年	1858005013	譜久山朝典起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.3×51.8	楮紙杉原	24.0×27.3	那智滝	8紙
60 安政5年	1858005013	小禄良忠起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.2×51.9	楮紙杉原	23.9×26.4	那智滝	8紙
61 安政6年	1859005006	譜久山朝典起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.7×49.0	楮紙杉原	24.1×26.0	那智滝	8紙
62 安政6年	1859005006	池城安邑起請文	任三司官役	楮紙奉書紙	38.7×47.9	楮紙杉原	23.7×25.9	那智滝	8紙
63 文久2年	1862006019	宜野湾朝保起請文	今般任三司官役	楮紙奉書紙	38.6×50.4	楮紙杉原	24.0×31.1	那智滝	8紙

表 5 琉球国王書狀

和年号	西曆	文書名	差出	内容	紙質	体裁	法量	紙数
大永 6年	1526008001	琉球国王尚清書狀	琉球国王(首里之印)	武具之両種芳物礼	竹紙(外)	堅紙	31.3×44.0	1紙
天正 8年	1580012022	中山王尚永書狀	中山王(首里之印)	使者下着返礼	竹紙(外)	堅紙	28.4×44.6	1紙
天正 19年	1591008021	中山王尚寧書狀	中山王(首里之印)	関八州進伐之祝儀	竹紙(外)	堅紙	29.0×44.9	1紙
文祿 3年	1594006010	中山王尚寧書狀	中山王(首里之印)	高麗国役之事	竹紙(外)	堅紙	28.1×43.9	1紙
慶長 2年	1597005027	中山王尚寧書狀	琉球国王(首里之印)	朝鮮在番帰国礼	竹紙(外)	堅紙	29.0×44.2	1紙
	9999901011	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	此地安堵礼	楮紙引合	堅紙	37.4×71.2	1紙
	9999906015	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	佐敷王子帰国礼	竹紙(外)	堅紙	33.9×56.6	1紙
元和元年	1615909003	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	去年上方乱劇帰国礼	竹紙(外)	堅紙	32.2×61.3	1紙
	9999903013	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	天幸祝儀	楮紙引合	堅紙	30.8×70.5	1紙
	9999903026	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	佐敷王子上国事	楮紙引合	堅紙	32.7×57.7	1紙
	9999906017	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	先王之弔使礼	竹紙(外)	堅紙	29.9×48.6	1紙
	9999901003	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	明使帰国之報告	斐紙烏子	切紙	22.3×51.5	1紙
	9999901011	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	上洛祝儀	斐紙烏子	切紙	23.8×52.2	1紙
	9999901011	中山王尚寧書狀	中山王(花押)	去歳黄門昇進祝儀	斐紙烏子	堅紙	33.6×50.8	1紙
寛永 12年	1635006001	琉球国王尚豐書狀	琉球国王尚豐(花押)	清進貢報告	斐紙烏子	折紙	35.5×51.6	1紙
寛永 15年	1638002023	琉球国王尚豐書狀	琉球国王尚豐(花押)	達例見舞	斐紙烏子	堅紙	35.0×43.4	1紙
	9999901002	琉球国王尚豐書狀	琉球国王尚豐(花押)	年賀	楮紙奉書紙	堅紙	33.2×55.6	1紙
正保 2年	1645005009	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	大樹世家祝儀使世話礼	楮交斐紙	堅紙	34.5×51.8	1紙
	9999901011	琉球国王尚豐書狀	琉球国王尚豐(花押)	年賀	楮紙奉書紙	堅紙	35.4×54.9	1紙
慶安 3年	1650006008	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	久平尊君繁昌祝儀	楮紙杉原	堅紙	37.6×52.6	2紙
	9999901011	琉球国王尚賢書狀	琉球国王尚賢(花押)	年賀	斐紙烏子	堅紙	33.1×47.8	1紙
	9999901011	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	年賀	竹紙(外)	堅紙	27.3×43.3	1紙
	9999905010	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	公方様即位祝儀	斐紙間似合	堅紙	31.8×47.9	1紙
	9999906008	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	繼目慶賀使拝受品礼	楮紙奉書紙	堅紙	34.7×51.5	1紙
	9999903006	琉球国王尚質書狀	琉球国王尚質(花押)	黄門様十三回忌香典進上	竹紙(外)	切紙	22.4×49.1	1紙
寛文 10年	1670005015	琉球国王尚貞書狀	琉球国王尚貞(花押)	先国司尚質跡職起請差上	楮紙奉書紙	折紙	37.2×51.0	1紙
	9999904021	琉球国王尚賢書狀	琉球国王尚賢(花押)	免姫様縁中祝儀	斐紙烏子	堅紙	31.7×56.7	1紙
宝永 7年	1710005002	琉球国王尚益書狀	琉球国王尚益(花押)	先国司跡職起請差上	楮紙奉書紙	折紙	44.3×57.2	1紙
正徳 5年	1715001011	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	改年之吉祥珍重	斐紙烏子	堅紙	32.2×56.6	1紙
正徳 5年	1715004011	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	当家繼目安堵礼	斐紙間似合	堅紙	32.8×66.2	1紙
正徳 5年	1715004018	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	大清封王使之事	斐紙烏子	堅紙	32.7×65.2	1紙
正徳 5年	1715005018	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	侍従様元服祝儀	斐紙厚様	堅紙	33.0×62.4	1紙
正徳 6年	1716004021	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	光相院様逝去弔慰	斐紙烏子	堅紙	32.8×50.0	1紙
享保 3年	1718004005	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	有章院様薨御弔慰	斐紙烏子	堅紙	33.9×58.7	1紙
享保 3年	1718004022	中山王尚敬書狀	中山王尚敬(花押)	江戸使差上	斐紙間似合	堅紙	33.3×63.1	1紙

表 5 琉球国王書状

	和年号	西暦	文書名	差出	内容	紙質	体裁	法量	紙数
36	宝暦13年	1763001011	中山王尚穆書状	中山王尚穆(花押)	年賀使差上	斐紙間似合	豎紙	35.8×58.1	1 紙
37	宝暦13年	1763004003	中山王尚穆書状	中山王尚穆(花押)	若君様誕生祝儀	斐紙烏子	豎紙	35.8×61.7	1 紙
38	宝暦13年	1763004006	中山王尚穆書状	中山王尚穆(花押)	公方賜御肴祝儀	斐紙間似合	豎紙	35.0×54.1	1 紙
9	宝暦3年	1763004013	中山王尚穆書状	中山王尚穆(花押)	去年大御所様薨御弔慰	斐紙間似合	豎紙	35.7×51.2	1 紙